

第 21 回岐阜大学技術報告会について

本来でしたら、「第 21 回岐阜大学技術報告会を終えて」というタイトルで令和 2 年 3 月 4 日（水）に開催されるはずであった、技術報告会の実行委員長としての挨拶をさせていただくはずだったのですが、新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の事態に直面して、非常に残念ながら技術報告会も中止せざるを得ない状況になってしまいました。

令和 2 年 4 月 1 日からの東海国立大学機構の設立によって、岐阜大学と名古屋大学が一つの組織体になるという全国初の事例を控えていたため、本技術報告会も名古屋大学の技術研修会と相互乗り入れの形での開催を計画しており、オンライン環境で両大学の報告会をリモート中継する予定でした。これを契機に名古屋大学と岐阜大学の統合の前祝いにできればと計画しておりました。

発表内容についても、特別講演として令和 2 年 4 月 1 日からの「岐阜大学高等研究院全学技術センター」の発足に伴い、名古屋大学の事例を名古屋大学全学技術センターの古賀様に発表いただく予定をしており、また岐阜県が最初の発生事例となり、その後全国的な拡大がみられた「豚コレラ」についての発表を岐阜大学応用生物科学部共同獣医学科の猪島教授に発表して頂く予定であり、両発表とも非常にタイムリーな話題で多くの方にお聞きしていただきたかった内容でした。

また、一般講演として、学外から名古屋大学、三重大学、名古屋工業大学、分子科学研究所の 4 施設より 4 題、学内の 4 部局より 6 題と計 10 題の発表を予定しており、充実した発表となる予定でした。

誠に残念ながら報告会としての臨場感はなくなりましたが、皆様の準備に少しでも報いさせていただくために、本報告集の発行を以て「第 21 回岐阜大学技術報告会」は成立したものとさせていただきます。

皆様の無念や悔しい思いは、来年度に引き継いでいただき、次回の第 22 回技術報告会に向けていただきたいと思えます。

最後に、あらためて本技術報告会に発表予定であった皆様および、最後まで報告会の実現に尽力していただいた実行委員の皆様、関わっていただいたすべての皆様に中止になってしまったことのお詫びと感謝の意を評します。

第 21 回岐阜大学技術報告会 実行委員長 酒向 隆司